

英語

(分析は一般入試Aの問題のみです)

出題傾向

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/3 2/4 2/5 共通仕様	第1問	空所補充問題(文法・語法、熟語)	やや易
	第2問	整序英作文問題(文法・語法、熟語)	標準
	第3問	空所補充対話文完成問題	やや易
	第4問	会話文および広告問題	標準
	第5問	長文読解問題	標準
	第6問	長文読解問題	標準

3日程より試験日を選び、最高3日程全て受験可能である。3日程を通して全てマークシート方式で、試験の形式は文法・語法空所補充問題1題、整序英作文問題1題、短めの会話文問題1題、長めの会話文問題・広告問題の1題、長文読解問題2題の大問6題から構成され、小問数は40問と統一されている。また、椋山女学園大学の入試問題は、2科目を選択して受験する形式をとり、試験問題は2科目あわせて120分である。したがって、各科目にかかるバランスにもよるが、平均的には60分程度が解答時間である。第1問は英文の空所に適切な語句を補充する形式で、時制、準動詞などの基本的な文法・語法や on one's way home などの熟語の知識を問う問題が出題されている。第2問は整序英作文問題で、5つの選択肢を適切な語順に並べかえる形式だが、和文が与えられていないため、形式自体の難度は高めである。ただし、出題されるのは関係詞、仮定法、受動態、疑問詞を用いた疑問文などの基本的な文法・語法項目や keep an eye on ~ などの基本熟語が中心であるため、問題としての難度はさほど高くなかった。第3問は、2人による1往復の会話内の空所を補う形式である。発言数が少ないため、状況をとらえるのがやや難しい。会話特有の表現を問うというよりは、もう1人の発言を元に文脈把握ができていないかを問う問題が主となっている。第4問では長めの会話文問題と、英語で書かれたチラシに関する内容一致問題の2つの形式が出題されている。会話文問題は、内容一致問題・語義選択問題・空所補充問題で構成されている。問題自体の難度はさほど高くないが、会話文内で口語表現が多く使われており読みづらいと感じる受験生も多いだろう。チラシ問題は、センター試験の第4問Bに類似した出題形式であるが、内容一致問題が中心であるため取り組みやすいと言えるだろう。第5問・第6問は、ともに標準的な語彙を用いた500~600語程度の長文読解問題である。読みやすい論説文が題材として選ばれており、空所補充問題・語義選択問題・内容一致問題・タイトル問題などを用いて長文の理解度を測っている。

英語

(分析は一般入試Aの問題のみです)

学習対策

全体的な難易度はやや易～標準の範囲であるので、対策としては高校3年間で学習する基本事項を不足なく固めることが求められている。ただし、想定される60分という試験時間に対し、読む必要のある英文量が多めであるため、時間内に解き終わるためには十分な演習が求められる。それでは、椋山女学園大学入試を突破するための学習ポイントをまとめてみよう。

●文法・語法の基本問題を繰り返し演習しておこう

第1問・第2問は、文法・語法の基本的な知識が定着しているかを測るような問題である。特に第1問は、それぞれの文法項目における定番問題が出題される傾向にあるため、全問正解できるようにしておきたい。第2問のような英文整序問題が苦手な受験生も多いが、文法・語法の演習と並行して、各文法項目の重要表現を覚えるようにすると格段と取り組みやすくなるであろう。また、試験時間を考えると、第1問・第2問にかけられる時間はかなり少ないことが予想される。標準的なレベルの文法・語法中心の問題集を繰り返し解き、反射的に問題が解けるようになるまで演習しておこう。

●単語・熟語力をつけよう

単語・熟語力は英語学習の要である。第1問・第2問で出題されることはもちろん、長文読解においても無くしてはならない力である。まずは、センター試験レベルの単語集・熟語集をそれぞれ1冊ずつ、何度も反復して覚えるようにしよう。接尾語・接頭語の意味などにも着目すると効率的に力をつけることができる。それに加えて、演習する中で出てきた知らない単語・熟語も辞書を使って調べるようにしよう。

●長文読解問題に習慣的に取り組もう

各長文読解問題のレベル・長さは標準的なものではあるが、問題に充てられる時間が限られるため、効率よく読み進めることが求められる。そのような力をつけるには、対策に相当な時間を要するだろう。新しい長文を毎日1題読むことが理想的ではあるが、それが難しい場合は、一度読んだ長文を読み返すなどして習慣的に英文を読むようにしよう。長文読解問題が苦手な人は、まずは易しめの短文からスタートし、徐々に難度を上げ長文へと移行していきとよいだろう。

●口語的な表現に触れる機会を持とう

同大学では2つの形式で会話文問題が出題される。第3問・第4問ともに、文脈把握力が求められているのは言うまでもないが、特に第4問では会話文中に口語表現が用いられることが多いため、対策をしておくべきであろう。文法・語法問題集などに載っている口語表現を一通り覚え、ある程度口語表現に慣れておくことが望ましい。

●時間配分を考えよう

英文量が多めであるため、無計画に解いてしまうと時間内に解き終わることは非常に難しい。過去問題を解きながら、自分にとって最も良い時間配分を早めに見つけておくと安心できるだろう。